



世の中で話題になっているニュース等について知り、考えるためのヒントを得られるような資料情報をご紹介します。

プラスチック汚染(2) 対策・事例編

前回の「プラスチック汚染(1)」では、現状と課題に関する資料をご案内しました。今回は、産業界、リサイクル業界、自治体、NGOなど、それぞれの立場からの視点や取り組み、新技術や先進事例に関する資料をご紹介します。「プラスチック汚染(1)現状・課題編」とあわせてご覧ください。

書名・記事名	出版情報等	
<p>海洋プラごみ問題解決への道 日本型モデルの提案 増補版</p>	<p>重化学工業通信社・石油化学新報編集部編 重化学工業通信社 2019 西部：5194/98</p> <p style="text-align: right;">図書</p>	
<p>循環型経済を目指す欧州と、経済活動とのバランスを図りたいアジア諸国など、各国の事情に応じた対策や目標設定が求められている中で、焼却によるエネルギー回収という選択肢や日本のリサイクルシステムに対する評価が述べられている。各界有識者へのインタビューを通じて現状を明らかにし、製造流通の禁止という解決策だけにとどまらない方向を科学的な事実を基に議論し模索する。国際政治や企業の最新動向、統計なども掲載されている。</p>		
<p>プラスチック・フリー生活 今すぐできる小さな革命</p>	<p>シャンタル・プラモンドン著 NHK出版 2019 西部：519/267</p> <p style="text-align: right;">図書</p>	
<p>日用品に使われる15種類のプラスチックに含まれている、健康被害を及ぼす可能性のある物質について解説している。これらのプラスチックの使用を控えるためにできること、日用品の選び方や食品の保存方法、掃除や洗濯の工夫など、プラスチックの代用品を使った暮らし方を提案する。</p>		
<p>特別特集 脱プラ待たなし！ 最新ソリューションと今後の動向</p>	<p>『環境ビジネス』 日本ビジネス出版 2019年秋号 p103-117 西部</p> <p style="text-align: right;">雑誌</p>	
<p>2019年5月に策定された「プラスチック資源循環戦略」の概要が紹介されている。基本原則は「3R+Renewable」(減らす、再利用する、資源に戻して作り直す、再生可能な資源に置き換えていく)。2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクルするなど、それぞれ目標値が示されている。また、燃焼時に発生するCO2を削減する「グリーンナノ」、キノコの菌糸による代替プラスチックなど、国内外の企業による画期的な技術を紹介している。</p>		

特集2 海洋マイクロプラスチック問題を 読み解く 脱プラは解決策になるか？	『日経ものづくり』 日経 BP 社 2019年2月号 (773号) p59-67 西部 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">雑誌</div>
<p>様々なプラスチックを一律に削減することは、素材の持つメリットの放棄にもつながるという立場から書かれている。プラスチック技術者からの立場で廃棄物問題を解説しているほか、日本が世界に先行して確立している生分解性プラスチックの生産技術など、産業界ができることについて提案している。</p>	
特別解説 プラスチック再生技術開発 研究 最前線	『食品と容器』 缶詰技術研究会 2019年9月号 (710号) p 594-601 中央 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">雑誌</div>
<p>プラスチックにおける炭素循環を実現するためには廃プラスチックのマテリアルリサイクルが不可欠であるが、廃プラスチックをリサイクルしても強度不足のため限定的な分野での利用にとどまっている。しかし、本研究報告は、熔解・再成形法の条件によっては新規樹脂同等に物理再生が可能であることを明らかにしており、廃プラスチックのマテリアルリサイクルの促進につながることを期待される。</p>	
特集 海のプラスチック汚染	『都市問題』 東京市政調査会 2019年1月号 p 3-42 中央 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">雑誌</div>
<p>所収の論文「廃プラをどう処理するか」では、廃プラスチックを高炉還元剤、セメント焼成用燃料として利用する事例、廃プラスチックからアンモニアなどを合成する事例が紹介されている。また「アジアの廃プラ対策」では、アジアにおける廃プラスチック輸入規制の概要とともに、需要がみこまれるリサイクル技術の輸出、「生分解性」プラスチック、プラスチックにかわる非通水性素材の開発への期待が示されている。</p>	
特集 廃プラスチック対策の新潮流	『生活と環境』 一般財団法人日本環境衛生センター 2018年12月号 (752号) p 3-52 東部 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">雑誌</div>
<p>熱可塑性に優れた「ミドリムシプラスチック」や、内側のフィルムを剥がすことでゴミの削減とトレイの再資源化を容易にした「はがせる容器」など、技術・アイデア面からプラスチック対策を論じた論文を収録。また、ライフサイクルアセスメントの視点からプラスチックリサイクルを分析した論文や、回収ゴミの資源化の取り組みについて川崎市と、焼却炉を持たない志布志市の事例を紹介する論文を収録している。</p>	
特集 プラスチック汚染から海を救うため に	『月刊自治研』 自治労サービス 2019年6月号 (717号) p21-63 西部 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">雑誌</div>
<p>所収論文の「プラスチック禁止の世界的潮流」、「アジアにあふれるプラスチック」では、各国のプラスチック規制政策の動向について事例を紹介している。国内の事例として、京都府亀岡市の「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」における取り組みについての報告が掲載されている。</p>	
一般社団法人 JEAN	http://www.jean.jp/ <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">Web 情報</div>
<p>非営利の環境 NGO である JEAN の活動を知ることができるサイト。JEAN は、1990 年から 30 年にわたり海洋ごみ問題に取り組んでおり、海洋ごみの調査やクリーンアップキャンペーンの主催、普及啓発、情報発信など、様々な活動を行っている。</p>	

(インターネットの最終確認日:2020年2月26日)

作成：千葉県立西部図書館